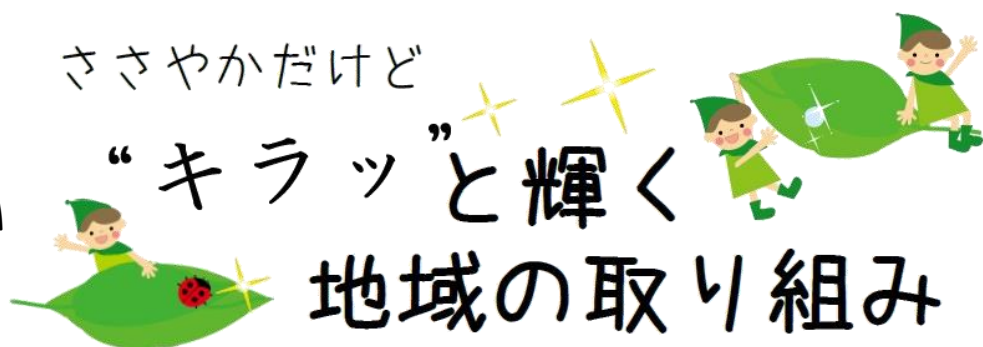


開催
レポート

平成 30 年 9 月 1 日
@ウイル西城 2 階
ウイルホール



生活支援体制整備事業は、介護保険制度に位置づけられた、福祉の地域づくりを進める事業で、庄原市では平成 28 年度から実施しています。

この度の実践報告会は、この事業について、各地域で取り組まれている活動を紹介し合うことで、それぞれの活動の大切さを再確認し、新たな活動につながる場となることをめざし、初めての試みとして実施したものです。

プログラム

- 13:30 開会・あいさつ・オリエンテーション
- 13:45 事例報告の導入 「生活支援体制整備事業について」
- 13:55 事例報告① 小奴可の里自治振興区 千鳥自治会
- 14:30 休憩
- 14:45 事例報告② 総領自治振興区協議体「総領さいたらの会」
- 15:20 事例報告③ 峰田自治振興区協議体「ほほえみ」
- 15:55 まとめ
- 16:00 閉会

実践報告会のコンセプト

「生活感」「手づくり感」「地元感」

この3つが、今回の実践報告会のキーワードでした。

これらには、「すごいことでなくて良いから、身近なところでちょっと輝いている取り組みの積み重ねを大事にしよう」「派手じゃないけれど良いものをつくっていきましょう」という思いがこめられており、この会のコンセプトになっています。

- 庄原市内の事例にこだわり、市内の地域同士がお互いに共感できる会にする。
- 先進的で完成された事例ではなく、取り組みの途上でも良いので、“キラッ”と輝くような大切なポイントが見える事例を取り上げる。
- 報告を聞いた人たちが、「自分たちにもできる」と前向きな気持ちになれる。

こんなことを心がけながら、“普段の暮らしの中で、地域や身近な人のことを想う気持ちが少しずつ形になってきている取り組みの報告を聴くことで、それぞれの地域の取り組みが、また一步前進する”、そんな会になるように内容を考えました。



実践報告の進行役

今回の実践報告会は、1つの発表ごとに、質疑や意見交換を行う時間をたっぷり設けました。各事例を掘り下げ、会場からの発言を受けながら全体で学びを共有したり、お互いにやる気や元気が得られたりするような時間にしていくため、地域福祉に精通したこのお二人に進行をお願いしました。

ファシリテーター

奥田 久美子 さん



庄原市社会福祉協議会
生活支援
コーディネーター
(第2層統括)

メインの進行役です！

サポーター

上田 正之 さん



庄原市高齢者福祉課
生活支援
コーディネーター
(第1層)

経験豊富な知恵袋です！

～ここからは当日話された内容の紹介です～

導入

『この事業の背景、目的について』

説明者 生活支援コーディネーター 上田 正之 さん

説明要旨

全国的に、加速度的な少子高齢・人口減少社会化が進行。

→社会保障の危機・制度上は、要介護2までの人は在宅で暮らさざるを得ない状況。

制度はともかく、殆どの方は「暮らし慣れた場所で過ごしたい」という思いを持つ。
それを叶えるのが、医療・介護・地域が一体となった「地域包括ケア」システム。

もともと、医療と介護の連携は長年取り組まれていたが、それだけでは行き詰まった。

→一人ひとりの暮らし方、家族の有り様、地域の中でお互いにどう暮らすか。

つまり、「地域」という要素が欠けていた。

行き着いたのが、医療・介護に「地域」を加えた「地域包括ケア」。

生活支援体制整備事業とは

地域包括ケアの中で「地域」の部分を担当する事業。

→住民参画による“暮らしやすい地域づくり活動”を進める。

→地域の一人ひとりや地縁組織が、事業の展開を決める大きなポイントになる。

この事業で出てくる用語

協議体・話し合いの場。地域課題を話し合い、地域だからできることを形にする。

生活支援コーディネーター・つなぎ役。話し合いの場を作ったり、情報提供したり、地域の資源探しを手伝ったり、ニーズ（困り事）と応援者をつないだりする。

さいごに… 自分が支える地域は、自分を支えてくれる地域でもある

逆に言えば… 自分が支えようとしない地域は、自分を支えてくれることのない地域



報告

①

小奴可の里自治振興区 千鳥自治会

『防災と見守りコラボマップ』

発表者 大原 元治 さん

+ 生活支援コーディネーター 半瀬 美恵子 さん

発表要旨

平成 23 年 4 月 小奴可の里自治振興区発足
→地域振興計画の 1 つ目に「支え合い、助けあいの仕組みづくり」
2 つ目に「安心・安全な地域づくり」を掲げた。

平成 29 年 3 月 地域振興計画の見直し

課題 ・支え合いが組織化できておらず、役員交代により活動が続いていない。
・自治会には専門部があるが、自治振興区には対応する専門部がなく、動きがそれぞれ。

見直し →行動計画の 1 つ目に「安心・安全な地域づくり」を掲げた。
→各自治会の支え合いのしくみ作りを統括する組織を自治振興区に設けることにした。

平成 30 年 2 月 『土砂災害計画区域等の指定にかかる説明会』で県の説明を聴く
→各自治会長から、「自治会長が聞いただけでなく、みんなに見える形にしたい」という声

3 月 11 日 『千鳥自治会防災会』を開催

①勉強の時間：1.地域包括ケアシステムについて 2.自分でやること 3.地域に求められるもの
→地域なりの自助・互助・公助のバランス、自分や地域がやることを考えた。
→「地域包括ケアは自分達の幸せのためにある」という感想が出た。「自分ごと」になった。

②見守りマップづくり

→作業を通して、ご近所が普段から気に掛け合っている様子が見えてきた。
→作業を進める中で、「同居家族がいても昼間は 1 人の人が心配」という声から、「ちょっと気にかける人」の項目をその場で追加した。
→つながりが無い人が見えてきた。→「時々行ってみる」という人が出た。

7 月 28 日 『第 2 回千鳥自治会防災会』

・豪雨災害の体験を発表して共有 →「マップづくりが今回の災害で役立った」という声
・マップの活用について →「集会所に掲示する」「年に 1 回は更新する」などのアイディア

今後に向けて…子どもたちに安心して暮らせる地域を残すためにがんばりたい!

○生活支援コーディネーターから

・「自分たちの地域は自分達で守らんと」という強い思いを肌で感じた。
・「気にかかけあい、「つながり」をマップを通して確認することで、現状を知ることができた。」
・マップを通して日頃からの「気にかかけあい、「見守り合い」を確認することが、いざというときの速やかな対応につなげられると確信できた。

○感想・応援コメント

・西城でも災害時の避難について協議を重ねており、自治会、常会単位で話ができることを目標にしている。目指すところを見せてもらって勇気をもらった。

○質疑

Q:「誰ともつながりが無い人」はどうやってわかったのか?

A: 普段の生活の中で皆が感じていた。回覧が回らない、近所づきあいが無いなど。

Q: マップづくりが今回の災害で役立ったと感じた具体的なポイントは?

A: お互いに声をかけ、連絡を取り合っていた。積極的な声かけにつながった。

Q: 小奴可の中で他にも取り組んでいる自治会があるのか?

A: 自主防災会は、小奴可自治会でも取り組んでいる。年に 1 回訓練をしており、備蓄倉庫もある。訓練の成果として、今回、災害危険区域では 100%に近い人が避難された。

会場との意見交換



報告 ②

総領自治振興区協議体「総領さいたらの会」 『この地域で安心して暮らしていくために』

発表者 下領家自治会長 水戸 美代子 さん

+ 総領自治振興区 事務局長 中田 博章 さん

+ 生活支援コーディネーター 石田 貴美 さん

発表要旨

地域の現状 ・人口、世帯数の減少

・ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯の増加

平成 28 年 高齢者等が安心して暮らすために、見守り活動を進めよう！

→7つの自治会ごとに話し合いの場を設けた。

→対象者を決めて、日常生活の中での「さりげない見守り」を進めた。



活動の中で、自治会内だけでは解決できない課題が出てきた。

【例】除雪の問題（マンパワー不足）

・高齢化により、班内で除雪ができる人がいなくなった

・60歳を超えても会社勤務の人が増えて、平日に除雪ができる人がいない など

「他の自治会はどんな活動をしていて、どんな困り事があるのか？」

平成 30 年 2 月 各自治会の見守り員が一同に会した情報交換会を開催

→10年後を見据え、課題を総領地域全体で考える場が必要という意見



6 月 自治振興区を中心に、各自治会が集まり情報交換をする場を設けた

・会の名称を「総領さいたらの会」とし、毎月開催することを決定。

・構成員は、各自治会、地域包括支援センター、社協(生活支援コーディネーター)、自治振興区。

・言いたいことが言える、ざっくばらんな会として進めていく。

活動を通して、地域にも様々な変化が生まれてきた

【意識の変化】 ・7月の豪雨災害の際、自主的に近所への積極的な声かけや炊き出しが行われた。

・見守られる側も、自ら助け（SOS）を求めることができるようになった。

【課題解決の取組】 「さいたらの会」の議論から、草刈ボランティア「メリメリレンジャー」誕生。

メ+リ=メリ

今後に向けて…住み良いまちになるための取り組みをわいわいがやがやの中から見つけていく！

○生活支援コーディネーターから

・地域で困っている人を何とかしたいという熱い思いが重なって「さいたらの会」につながった。

・自治会の皆さんだからこそ、地域の生の声からニーズを捉えることができる。

・お互い気にかけて合うことの大切さが総領地域の中で広がりつつある。

・遠慮無く言い合える、“わいわいがやがや”のいい雰囲気があり、今後も楽しみ。

会場との意見交換

○感想・応援コメント

・自分の地域では「先のことを言うな」「今が大事」と言われるが、先のことを考える事が大事。

・自治会の活動と自治振興区（地域の全域）がうまくつながり、地域の元気につながっている。

○質疑

Q：ひとり暮らし高齢者の身内等の連絡先はどのように確認しているのか？

A：隣家に聞けば分かる。会の中で具体的な話が出た際は、記録の扱いに注意している。

Q：「さいたら」は良い意味ばかりの言葉ではないが、なぜこの名前にしたのか？

A：見守りをしていると、どうしても「おせっかい」無しには済まないという体験から。

Q：自治振興区ではこの動きについてどんな感想を持っているのか？

A：ひざを突き合わせて話すことで、地域の状況がよく分かり、色んなアイデアが生まれる場になっている。意見の出しやすさを重視しており、雑談交じりなものも良い。



会の名称の由来を説明して下さった「さいたらの会」の秋山さん

報告

③

峰田自治振興区協議体「ほほえみ」

『ほほえみ ～みねた大好き 咲く夢・咲く花・咲く笑顔～』

発表者 峰田自治振興区事務局長 藤永 春信 さん
+ 生活支援コーディネーター 稲里 美鈴 さん

発表要旨

峰田の地域包括ケアを進めていくために…

平成 28 年 7 月 1 日 第 1 回峰田地域ケア会議

→地域包括ケアとはどういうものかを確認、その後内部で協議を重ねる。

平成 29 年 6 月 16 日 自治振興区会議で説明

→説明資料として「ここで暮らしたい」リーフレットを作成。

→リーフレットは各戸配付も行い、区民に周知を進めた。



峰田地域包括ケア 取組の3本柱

- ・見守りの仕組みづくり
- ・集まり場づくり
- ・支え合い活動

平成 29 年 8 月 29 日 第 1 回「峰田地域包括ケア」(仮称) 会議

- ・規約の協議、取組の進め方についてワークショップを実施

平成 29 年 11 月 28 日 第 2 回「峰田地域包括ケア」(仮称) 会議

- ・ワークショップを受け、取組の3本柱について進め方を協議

→より多くの意見を集約し、地域の良いところを活かすため、アンケートの実施を決定

平成 30 年 1 月 30 日 第 3 回「峰田地域包括ケア」(仮称) 会議

- ・アンケートの最終確認と今後の取組について



- ・アンケートを受けて、峰田地域包括ケアの名称が「ほほえみ」に決定！

- ・民生委員、ひとり暮らし高齢者等巡回相談員、自主防災組織など、

「ほほえみ」の中で横のつながり、地域の輪の広がりが出来てきている。

- ・「わしがわしが」から「わしらがわしらが」へ、考え方の変化を感じている。

今後に向けて…地域の声を大切に、横の連携を図りながら、できることを一緒に考えていく

○生活支援コーディネーターより

- ・自治振興区では、既存の取り組み、組織、地域をどう活かしてこの取り組みを進めていくか悩んでいた。協議体の構成メンバー、役割、目的等について 20 回近く打合せを行った。
- ・アンケートでは、日常生活の困りごとについて、自分の力や家族、近所の助け合いで何とかなっている人が多いことが分かるなど、今までは分からなかった地域の現状が見えた。

会場との意見交換

○感想・応援コメント

- ・小奴可自治振興区では、最初に地域振興計画をつくった際に峰田を参考にした。見直しをするときも峰田を参考にした。後姿を見ながらこれからも頑張りたい。
- ・先ほど、総領では草刈について困っていると藤永さんに話をしたら、お助けネットの話をしてくださった。詳しく教えてくださいと言ったら、笑顔で「ええよ」と言ってもらえた。今日はここに来て良かった！



○質疑

Q：アンケートを詳しく書いてもらうために工夫した部分は？

A：設問の前に「今こんなことに取り組んでいます…」といった実情を入れたりしている。班長さんたちが積極的に動いてくれたこともあり、回収率は 84%を超えた。

Q：ワークショップをやってみようと思ったきっかけは何か？

A：活動の3本柱を立てたが、何をどうするかを具体的に考える必要があった。ワークショップの意見を参考にしてアンケートができた。地域の声を活かしたいという思いが根底にある。

Q：稲里さんが 20 回訪ねたというのは、うんざりしなかったか？稲里さんはどうだったか？

A：(藤永さん) 1～2回ではこうならなかった。責任を持ってずっと関わってもらった外部の方がいるというのは、峰田の力になっている。

A：(稲里さん) 正直なところ、最初は怖い感じで話ができなかったが、通った分だけ関係ができた。今日も一緒に衣装合わせをした。通うことは大事。

活動成果物の展示コーナー

各地域の活動の中で出来た成果物を集めて、ロビーで展示しました。7地域8点の出展があり、冊子や住民アンケートの報告、活動紹介ポスターなど様々な成果物が集まりました！



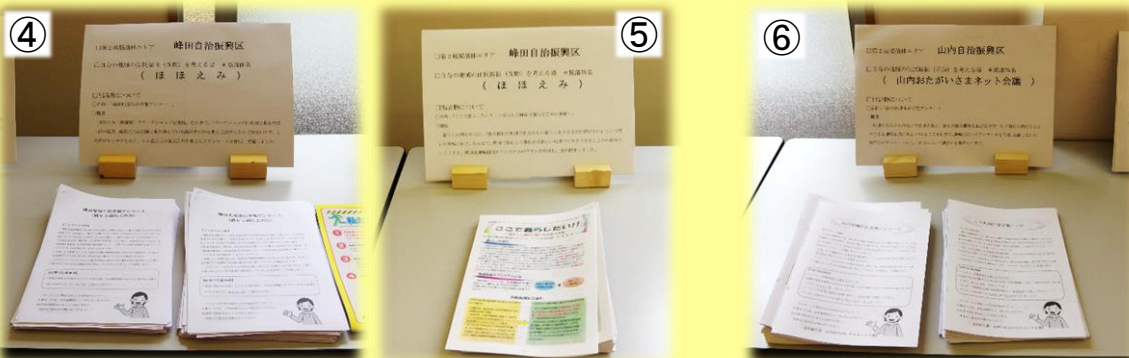
①上高自治振興区・下高自治振興区協議体「なんずかんずつながる会」 『たかのなんずかんず便利帳』

地域住民の生活をちょっと応援してくれる様々な社会資源（お店、生活支援サービス、交通、医療、介護、相談窓口など）を1冊にまとめた便利な冊子です。

②西城自治振興区・八鉾自治振興区協議体「西城暮らしとあんしんの会」 『私たちができる避難のための13か条』

支所が発行する「しあわせカレンダー」の末尾に、避難をする時に大切なポイントを13点掲載しました。

③高自治振興区協議体「ありがとうの会」『高地区支え合い見守りネットワーク事業』 見守りネットワーク事業イメージ図、加入方法等を案内した住民向けのチラシです。



④峰田自治振興区協議体「ほほえみ」 『峰田地域生活実態アンケート』

地域の現状、課題の共通認識、気づきにつなげるため作成し、65歳以上の全世帯に実施したものです。

⑤峰田自治振興区協議体「ほほえみ」 『ここで暮らしたい!!～安心して峰田で暮らすための取組～』

地域包括ケアについて、自治振興区として今後取り組む姿（考え方や活動方針）をチラシにして全戸配付したものです。

⑥山内自治振興区協議体「山内おたがいさまネット会議」 『山内地域生活実態アンケート』

地域の現状、課題の共通認識、気づきにつなげるため作成し、65歳以上の全世帯に実施したものです。





「見守りマップ」の作成手順方法

- ① 空き室 と時々帰省 を確認する。
- ② 気にかける人(高齢者・障がい者等) を確認する。
- ③ ちよつと気にかける人 を確認する。
 ・75歳以上の一人暮らし、二人暮らしの人
 ・昼間一人である人
- ④ 支援者になれる人 を確認する。
- ⑤ 気にかける人が誰とつながっているかを確認する。
 (気にかける人とつながっている人の了解をとる)
 ・つながりが見つからない人には意図的に支援者を決める。
- ⑥ つながりを(赤の-)で示す。
- ⑦ いざという時に連絡する順番を決める。(赤の太さ)
- ⑧ 土砂災害警戒区域 や避難場所 避難場所 等に指定された場所を記入する。

・ 年に1回の見直しをする。

パネル展示 したもの (ポスター、写真など)

←マップの作成手順方法
地域の現状やつながりを見る化する工夫がよく分かります！

小奴可の里自治振興区協議体「小奴可の里の福祉を考える会」
『千鳥自治会 防災と見守りコラボマップ』
マップ作成時の様子、完成時記念写真、「見守りマップ」の作成手順方法を展示しました。



比和自治振興区協議体「あんしんづくり会議」
『地域の誰もが「わかりやすく」「見える化」しました』
解決できそうな課題から、ワイワイガヤガ言いながら見える化した過程を、「押し車設置とベンチの見える化」「比和まるごと家族 地域ケア・あんしんづくりプラン」「比和まるごと家族たなばたまつり」の3枚の展示でお伝えしました。



庄原市からも、「第8期シルバーリハビリ体操指導士養成講座受講者募集」「庄原版終活ノート いきかたノート～私からあなたへ～の紹介リーフレット」を出展しました。



まとめ

生活支援コーディネーター 上田 正之 さん

この研修会を企画するにあたり、まず確認したのが3つのキーワードでした。“生活感・手づくり感・地元感”、このキーワードは、私たち一人ひとりの普段の暮らしの中にあるものだからです。

全国一律ではない、県内の他の市町を横目で眺めることでもない、派手ではない…。普段の暮らしの中でのお互いのちょっとした気かけ合いが感じられる取り組みこそ、そこで暮らしている人の“思い”が一番輝くときだからと思っています。

この会のタイトルが、『ささやかだけど“キラッ”と輝く地域の取り組み』となったのは、企画する当初、「普段の暮らしの中での人と人とのつながりを大切にしよう」というところから話を始めたことによります。

「最も不幸なことは病気や死そのものではなく、誰からも関心を持ってもらえず見捨てられることです・・・マザーテレサ」

できるだけ多くの人、多くの地域が“思いと行動”を共にするきっかけづくりこそ、この事業の趣旨です。

気かけ合うことこそ、地域でなければできないことです。

「これからもあきらめることなく共にやっぺいこう」

それが感じられる温かい報告会でした。いい会でした。



～参加者アンケートから～

○実践報告を聴いて

- 地域をどのようにするか本気な行動が感じられた。
- 地域の声をよく聞いて事業を進めていることが分かった。
- 正直、3つともうらやましかったです！田舎じゃえ出来るんよ、町うちじゃあ無理よ、とも言われますが、少しでも取りかかることが素晴らしいと思いました。
- 話をすることが大切。ざっくばらんに、わいわいがやがやの中から本音が出てくる、聞こえてくる、拾い出せる。

○この研修会、生活支援体制整備事業についてのご意見ご要望

- 「お互い様」「おせっかい」「人とのつながり」…キーワードが出てきました。とても温かいワードだと思います。「自分がやっちゃうよー」が増えればいいと思います。
- このような報告会があると、他の地域の取り組みが把握できるので自分の地域でも参考にしてみたいです。また開催してください。
- もっと沢山の方、地域からの参加があればいいと思いました。
- 横の連携（市全体）で情報共有ができて良かった。
- 地域課題を地域の力でなんとかしようと思いを合っている点を情報共有していければと思います。



この報告会は、来年以降も継続して開催する予定です。

新たな“キラッ”と光る取り組みの報告と、多くの皆様のご参加をお待ちしています！